

2014年（会報第22号）

山行記録

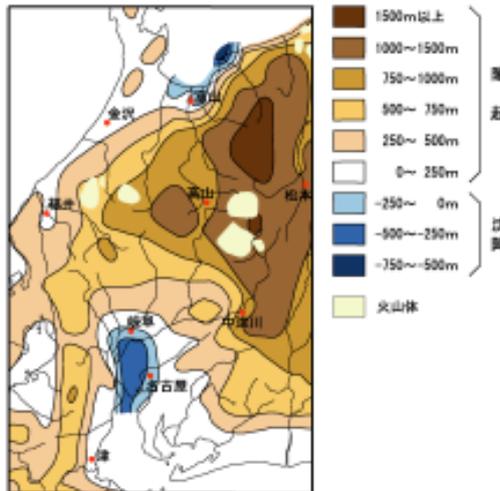


新津ハイキングクラブ

表紙のことは

表紙はコース No26.笠ヶ岳 2898m へ登る、道中にあるお花畑の秩父平。

優美な山容を誇る名峰笠ヶ岳は北アルプス南部にあり、古くから信仰を対象とされてきた山である。円空上人が天和 3 年（1683 年）開山、文政年間（1823、24 年）に幡隆上人が山道を修復しながら 4 回の登頂を果たし、再興した。山頂に阿弥陀仏を奉納したとされる。5 年後から槍ヶ岳に 5 回も登り槍ヶ岳を開山した。“日本近代登山の父”と呼ばれている英人ウェストンが日本アルプスを世に知らしめるより 65 年も前のことである。いわば初期のアルピニストである。幡隆上人像は JR 松本駅前で見ることがあることでしょう。



中部地方における第四紀の隆起沈降量
国立防災科学技術センター(1969)による

北アルプスは、日本で 3 番目に高い奥穂高岳（標高 3190m）や 4 番目の槍ヶ岳（3180m）などを含めて 2500～3000m 級の峰が連なる日本有数の山岳地帯を形成している。日本では最高峰の富士山が火山であるために、標高の高い山を火山体と考えがちであるが、北アルプスは富士山のような独立峰ではなく、全体として標高の高い山が 100km の規模で連なる山脈を形成している。北アルプスが低い標高をもつ理由は、全体としてどんどん上昇（隆起）しているためである。これは日本列島自体が「太平洋プレート」「北アメリカプレート」「ユーラシアプレート」そして「フィリピン海プレート」がぶつかって隆起し、長野県の地下当たりでこれらのプレートが押し合っていて更に隆起して日本アルプスが形成したとされています。すなわち、プレートの動きで形成されたものです。

また、河川は海面に近づくように大地を浸食していくため、隆起量が多ければ下方へ浸食していくことになり、急峻な地形が生まれる。“出る杭は打たれる”のことわざのとおり、上昇とともに容赦なく削られていき、その差し引きで現在の標高が作り出されている。急峻な地形は大地の隆起を反映しているといってもよい。

北アルプスの隆起運動はいま現在も継続している運動であり、中央アルプスも南アルプスも同じように隆起を続けている地域である。信玄は「動かざること山の如し」と言ったが、そのお膝元の山々は「動くこと山の如し」なのである。高い標高を維持しているのは浸食に打ち勝って隆起しているからであり、そのため現在も隆起を続けていると考えられるのである。浸食との差し引きで仮に年平均 1mm で上昇しているとすると、1000 年で 1m、100 万年で 1000m となる。100 万年という期間は地質現象としての最低時間単位と考えてよく、それだけの期間を考えると、人間がほとんど感じることのできない程度の運動でも、かなり大きな変化量をもたらす運動となる。北アルプス地域が他の地域とかなり異なる急峻な地形を作り出しているのは、それなりの“出る杭”だからである。

コバイケイソウ（小梅蕙草、ユリ科、分布：日本固有）は H25 年どの山も当り年。何故だろう？



どんなに科学技術が進歩したところで、人間は森羅万象の全てを理解することはできない。だが何故だろうか。環境の厳しい高山に生えている花々は、ほぼ地面にへばりついているような丈の低いものが多い。しかしコバイケイソウはよく伸びたものだと 1m 近くにもなり、遠くからでも目につく。さらに、大きな緑の葉の上に白い小さな花（小梅状）がブラシのようにびっしりとついた花柄が伸び上がり、しばしば湿地に大群落をつくるから、目立つことこのうえない。群生の見事さでは、ニッコウキスゲと双璧だろう。

花には当たり年と外れ年があるが、コバイケイソウほど、それが顕著な花は他にはないだろう。およそ 6～7 年に 1 度当たり年がやってきて、そんな年に会おうものなら、びっしりと咲くコバイケイソウのお花畑を満喫できる。本冊子からも満喫したことが伺える。それ以外の年には、「あの大群落は夢だったのか」と疑いたくなる程、パラパラとしか咲いていないこともある。いや、一寸でも咲いていればいい方で、年によっては全く花を見ないことすらある。昨年の H24 年は北アルプス山域でも全く咲いていなかった。

花を作るのは相当なエネルギーを必要とするわけで、受粉の機会が最も高くなるように群落の開花ピークを同調させた方がいいに決まっている。だが一体どんな手段でピークを揃えているのだろうか。ひとつの群落内の遺伝子形質は近いはずだから、開花を揃える仕組みがなくても、ピークは自然に一致するようになるのか。それとも何らかの情報共有手段でもあるのだろうか。細胞に周期性体内時計遺伝子が、皆共通して存在しているしか考えられない。

(1322)N/S

写真提供者：表紙(1315)E/S、コバイケイソウ(237)R/H 主な参考文献：Wikipedia 他

発行日：2014 年(平成 26 年)2 月 1 日 編集者：広報(1322)N/S、(1448)Y/O

発行団体名：新津ハイキングクラブ <http://niitsuhc.web.fc2.com/>